

一般社団法人 日本生態学会
2020年度 第4回通常理事会

1. 日時：2021年2月13日（土）13:00～17:12
2. 場所：オンライン会議（zoom）
3. 出席者：
 - ・理事会構成員（20名・定足数10名以上）
（理事）湯本貴和、宮下直、永松大、三木健、黒川紘子、中川弥智子、
久米篤、木村恵、内海俊介、東樹宏和、中野伸一、吉田丈人、
西廣淳、近藤倫生、辻和希、鏡味麻衣子、北島薫、宮竹貴久、
村岡裕由、和田直也
 - ・監事：陀安一郎
 - ・オブザーバー：陶山佳久、永光輝義、小池文人、幸田良介、大塚俊之、
佐々木雄大、本庄三恵
 - ・事務局：鈴木晶子
4. 議事概要：

定足数10名を超える20名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第42条に従い湯本貴和会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第46条に則り、湯本貴和会長、陀安一郎監事とし、議事録作成者は永松大理事が担当することとした。

報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
 - ・ 資料1に基づいて永松専務理事より、「気象庁による生物季節観測の変更の見直しを求める要望書」を作成し27学術団体連名で気象庁長官宛に提出した（12月23日）こと、理事会より推薦された日本生態学会功労賞候補者高村典子氏が代議員に承認され受賞決定となった（1月19日）こと、立行政法人大学改革支援・学位授与機構から依頼があり、機関別認証評価専門委員の候補者として生態学会より6名推薦した（1月22日）こと、共同利用・共同研究拠点継続要望書を8機関に会長名で送付した（1月13日、28日、2月10日）こと等、庶務4件会計7件の報告があった。
 - ・ 会員数について2020年学生会員数が増加したこと、2021年の生態誌購読(?)者数について一般会員のほとんどが冊子体不要であること、2020年末退会者が多く2021年の会員数は減少になる見込みであること、との報告があった。

2. Ecological Research 編集委員会報告

- ・ 資料 2 に基づいて陶山編集長より ESJ68 での ER フォーラム実施についての報告があった。外国人編集委員退任について後任の予定はないが外国人編集委員の割合を保つ必要があるため依頼を検討していくとの報告があった。

3. 日本生態学会誌編集委員会報告

- ・ 資料 3 に基づいて永光編集長より発行・編集・刊行状況の報告があった。
- ・ 2021 年より投稿規定に則って新しい体裁に変わること、受賞者総説執筆依頼を行う予定であること、2022 年から年間 2 冊発行に変更することを総会に諮りたいとの報告があった。

4. 出版状況報告

- ・ 資料に基づいて久米出版担当理事より科研費国際情報発信強化の中間報告を行ったこと、その際今後の OA 化についての質問があったことが報告された。
- ・ 学会誌の出版状況が大きく変わっているため継続して出版体制を検討していくことが報告された。

5. 大会準備状況報告

- ・ ESJ68 について、幸田大会企画委員長より概ね準備は終わり諸案内も公開していること、Zoom サポート業者との打合せ、リハーサル準備が残っていること、2/15 参加締切であること、理事会時点で発表者が 1200 人（普段発表者 1500~1600 人）、聴講のみの参加者との合計 1600 人くらいとの報告があった。
- ・ 参加締切を延長できないかとの意見があり、理事会後に検討し 2/17 に延長した（2/13 に東北地方で起きた地震も考慮してのこと）。
- ・ メディアから取材対応については、1) 取材については取材用のアカウントを用意する、2) 講演を聴講する際にはチャットにて取材の旨を伝える、3) スクリーンショットは禁止、資料提供の依頼は発表者に直接打診することが確認された。
- ・ 資料 4 に基づいて宮竹大会長より非常時対応についての行動計画について、懇親会等実行委員会も順調に準備を進めていること、当日実行委員は 1 か所に集まらず情報共有に Slack、LINE など SNS を用いるとの報告があった。
- ・ ネットワーク障害の場合について委託業者に確認する。

6. 各種委員会報告（キャリア支援専門委員会）

- ・ 資料 5 に基づいて木村理事より委員の追加、ESJ68 でのフォーラム・キャリア支援相談室・託児補助を実施すること、アンケートデータ解析結果の和文誌化準備について報告があった。

7. EAFES 報告

- ・ 中野理事より ESFES9（フフホト）について、2021 年 7 月 10-13 日に中国からの参加者はオンサイト参加、日本・韓国からの参加者はオンライン参加にて実施するとの報告があった。

8. 監査報告

- ・ 資料 6 に基づいて陀安監事より 2020 年度の事業計画、計算書類、理事の職務執行について適正に行われたとの報告があった。

9. 日本生態学会自然再生エネルギータスクフォース経過報告

- ・ 資料 7 に基づいて湯本会長より自然再生エネルギータスクフォース経過報告があった。
- ・ 今後の見通しについて議論した。パブリックコメント等を出す場合、多様な意見があるため学会意見としてまとめず会長が TF の意見も踏まえて会長名で発言すること、学会名で出す・委員会名で出す・会長名で出すケースがあるが慎重かつ効果的に対処していく等の提案があった。

10. 会員動向 WG 報告

- ・ 会員動向 WG の深谷会員より学会員の入退会の観点から動向について報告があった。詳細については ESJ68 フォーラムにて報告する。

11. その他

- ・ 湯本会長より気象庁による生物季節観測の変更の見直しを求める要望について気象庁より市民参加モニタリングを支援するとのコメントがあったこと、オープンな市民参加型調査とマニュアルに基づく調査員が行う調査の実施が考えられるが生態学会としても協力していきたいとの報告があった。

審議事項

第 1 号議案 規則改訂について

- ・ 資料 8 に基づいて永松専務理事より入会及び会費規則と会誌刊行規定改訂の説明と提案があり全会一致で承認された。

第2号議案 個人情報等の取り扱い方針（プライバシーポリシー）について

- ・ 資料 9 に基づいて三木庶務担当理事より個人情報等の取り扱い方針改訂の説明と提案があり全会一致で承認された。

第3号議案 大会開催地区会（関東）について

- ・ 資料 10 に基づいて小池保全誌編集長より関東地区開催の場合、横浜開催を検討しているとの説明があり、2024 年の大会を関東地区で行うことについて賛成 19 名、反対 0 名で承認された。

第4号議案 2020 年度決算案について

- ・ 資料 11 に基づいて黒川会計担当理事より説明があり 2020 年決算案が全会一致で承認された。

第5号議案 2021 年度予算案について

- ・ 資料 12 に基づいて黒川会計担当理事より説明があり 2021 年予算案が全会一致で承認された。

第6号議案 役員選任について

- ・ 資料 13 に基づいて湯本会長より 2021 年 3 月総会に推薦する役員候補者の説明があり、全会一致で承認された。

第7号議案 委員の承認（ER・キャリア支援）

- ・ 資料 2 に基づいて陶山 ER 編集長より ER 編集委員 1 名の提案があり全会一致で承認された。
- ・ 資料 5 に基づいて木村理事よりキャリア支援専門委員 1 名の提案があり全会一致で承認された。

第8号議案 Ecological Research 論文賞

- ・ 資料 2 に基づいて陶山 ER 編集長より Ecological Research 論文賞 4 報の推薦があり、全会一致で承認された。

第9号議案 Jeconet の移管計画について

- ・ 資料 14 に基づいて村岡理事より説明と提案があり情報交流支援委員会を充足し Jeconet 移管を進めることが全会一致で承認された。
- ・ 情報交流支援委員会の活動内容は様々考えられるが、まずは Jeconet 移管に専念する。

第 10 号議案 大会企業協賛に関する申し合わせ

- ・ 資料 15 に基づいて内海理事より大会企業協賛に関する申し合わせの説明と提案があり全会一致で承認された。
- ・ ESJ68 ではコロナ禍でも出展を得られたこと、新たにバナー広告を設置できたことが報告された。

第 11 号議案 英文 3 誌今後の出版体制について

- ・ 資料 16 に基づいて久米出版担当理事より説明があり以下の提案が全会一致で承認された。
- ・ 生態学会の事業として ER 誌、PE 誌、PSB 誌の出版を明確化する。
- ・ 生態学会は出版元という立場で合同編集部を通じて PE 誌、PSB 誌を運営し、その関係は学会間の覚書で定義すること、
- ・ 生態学会は ER 誌、個体群生態学会は PE 誌、種生物学会は PSB 誌の編集を担当し、編集審査は各誌が独立して行う。
- ・ 2023 年に向けて、生態学会総会や 3 学会の覚書の改正に向けた作業を進める。
- ・ 生態学会としては 3 誌出版を含んだ活動方針と委員会規程の改定に向けて準備を進める。

第 12 号議案 総会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項の決定

- ・ 資料 17 に基づいて湯本会長より説明があり、総会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項が全会一致で承認された。

その他

- ・ 久米出版担当理事より、コロナ禍のため国際交流が難しくなっているため海外とのセッション等国際交流を行い、その成果を学会誌に掲載する等、雑誌出版を盛り上げていく必要があるとの報告と協力依頼があった。
- ・ 近藤理事より、内閣府で進めるムーンショット型研究開発の紹介と生態学会が重要な役割をしていくと思われるため協力依頼があった。

閉会：以上の議事を終え、17 時 12 分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

2021年2月13日

会 長 : 湯本 貴和 ⑩

監 事 : 陀安 一郎 ⑩